



## 環境サロン「断熱」を学び地球を救い住まいを快適に

特定非営利株式会社 市民共同発電うべ 溝田忠人

表記環境サロンを2月11日と22日に実施しました。  
2月11日：高橋真樹著「断熱が日本を救う」集英社新書(2024)から、改めて日本家屋の断熱が、居住環境改善と省エネの大きな障害であり、より論理的・定量的な理解が必要と感じました。そこで広さ6畳の床面積を持つ箱の壁・床・天井を同じ壁材にして、内外18℃の温度差の達成に必要な熱量が、壁材によりどう変化するかという、断熱性能の理解を深める試みを紹介しました。厚さ12cmの木材の壁では2.55kWの暖房が必要、フェノールフォーム壁材なら0.255kWで電力量が1/10に減る、木材の熱伝導率0.2 W/(Km)に対して、フェノールフォームの熱伝導率0.02 W/(Km)と1/10だからです。もし土壁にすると4kWの大きな暖房エネルギーが必要です。(W/(Km):熱伝導率の単位)  
日本は西欧に比べ温暖ですが、炭や薪の不完全燃焼による一酸化炭素中毒の恐怖があり換気優先でした。断熱と換気の両方実現可能な今日、積極的に断熱を考えることが必要です。エアコンなどは高性能化により1%以下の効率改善が競われる時代、家の断熱では何割もの省エネが実現可能、この大きな可能性にこそもっと取り組むべきです。

2月22日：2重窓へのDIY断熱改修の実例やエコ給湯を深夜電力から昼間の炊き上げにして太陽光発電の活用により年間2万円の電気代の節減できた

こと(図1)などを紹介しました。討論では、断熱等級7などの高断熱ハウスは極めて高価になる、などの問題点が出されましたが、加藤泰生さんの理論的補足も踏

まえ、断熱の大切さが理解できたとの感想が得られました。また、「やまぐちRE100」の中原みどりさんが萩商工高校の教室の断熱ワークショップを生徒、校長先生等学校の協力で実現されたことを紹介され、高橋氏の著書に書かれていた白馬高校の例と同様のことが山口県で既に行われたことを知りました。これは、夏・冬の過酷な条件下で学ぶ山口県の児童・生徒の環境改善の先進例です。また莫大な冷暖房電気料金負担を抱える学校、教育委員会、山口県など地方自治体の積極的な関与が望まれます。参加者に配布したパンフレット“省エネの核心は「断熱」と「太陽光発電」”に詳述しています。これは「市民共同発電うべ」のホームページ

(<https://kyodohatudenube.jimdoweb.com/>)からダウンロードできます。

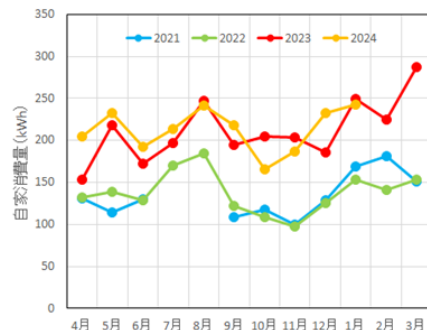


図1 2023年4月からエコ給湯の炊き上げ時間を深夜から昼間に変えて太陽光発電の自家消費が増え、電気料金を年間2万円削減。



3月15日(土) 13:30~16:00

第三回「こころを語る会」

こころの回復力を高めるレジリエンス・ワークショップ

場所：宇部フロンティア大学B棟1階臨床心理実習室

### 3月のイベント情報



申込×3月10日(参加費無料)

#### 宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 JR宇部線：「宇部新川駅」徒歩7分

宇部市営バス：「宇部中央」バス停徒歩3分

駐車場 無し (近隣の有料駐車場等をご利用ください)

TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail ubekuru@gmail.com

開館時間 9時~17時 HPアドレス <http://ubekuru.com/>

休館日 土・日、年末年始(12月29日~1月3日)



HomePage



facebook



x



NPO法人うべ環境コミュニティー

## 居場所について

宇部フロンティア大学大学院1年 高島彩香

皆さんは、居場所をいくつ持っていますか？  
居場所とは、「自分が自分のままでいられる場所」のことです。研究によると、このような居場所をたくさん持っている人ほど、健康的でいられるそうです。

「自分の居場所ってどこだろう？」と思ったら、まずは、一番リラックスできる場所を考えてみてください。

- 自分の部屋
- お風呂やトイレ
- キッチンやリビング

どこでも構いません。

人によって居場所は違います。

では、こんな場所はありますか？

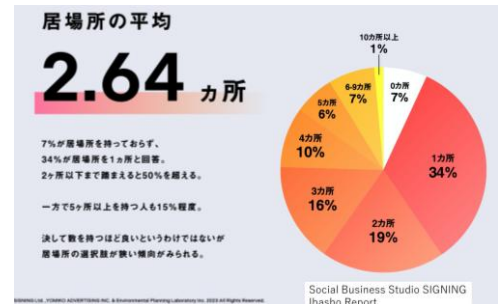
「人と一緒にいても、自分らしくいられる場所」

たとえば、

- 家族と過ごす家
- 友達という学校
- 職場
- インターネットの世界

それもあなたの居場所です。

人という気をつかい、「どこにも居場所がない」と感じることもあるでしょう。でも、大丈夫。どんなに小さくてもいいので、「ここなら安心できる場所」を見つけてください。そこでゆっくり休めば、元気がわいてきます。そうしたら、少しずつ、あなたの居場所を広げていけばいいのです。



## 水路に生息している生き物たち

(株)宇部セントラルコンサルタント 植田敏史

水路に生息している生き物たち

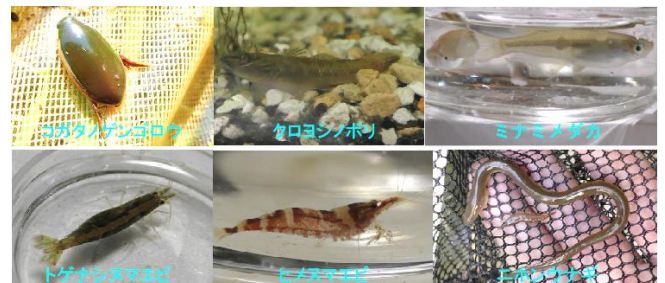
農業用排水路やため池、水田などは農業生産のための施設であると同時に、様々な生きものにとって重要な繁殖・生息の場ともなっております。

山口県阿武町で用排水路施設の整備が実施されるのですが、現地で確認されました生物を紹介します。

| 分類    | 見つけた生き物                                 |
|-------|---|
| 魚類    | ミナミメダカ、ドジョウ、ウキゴリ、クロヨシノボリ、ニホンウナギ、カワムツなど  |
| 甲殻類   | ヒメヌマエビ、トゲナシヌマエビ、ヒラタテナガエ、ミゾレヌマエビ、モクズガニなど |
| 貝類    | カワニナ、ヒメタニシ、モノアラガイ                       |
| 水生昆虫  | コガタノゲンゴロウ、ヒメアメンボなど                      |
| 水生植物類 | エビモ、ヨシ、ガマ、コナギなど                         |

表に取り上げた生き物たちは、写真に示すように、石積ブロック付近に植生が繁茂している場所に、たくさん生息しております。また、河床に生育しているエビモ群落には、ミナミメダカ、トゲナシヌマエビなどが沢山生息しています。転石や石積みにはカワニナ、ヒメタニシなどの

貝類、倒れた草の上にはツチガエル、ヌマガエル等の両生類も確認されています。



残念ながら、3面張りのコンクリート水路には植生がないので、ほとんど生物は確認されません。近年、身近に確認されていた、このような生き物は非常に少なくなっており、絶滅危惧種に指定されている生物も少なくはありません。このような生き物を保全するために、生物に配慮した水路づくりを計画していきます。計画については、またの機会に投稿します。